

実際に使用する際は、必ず商品に書いてある説明をよく読んで、記載内容に従ってお使いください。

←の部分が2015年11月25日付けで変更になりました。

【適用雑草と使用方法】

※印は本剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬を年間に同一場所に使用できる総使用回数の制限を示す。

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	総使用回数※	使用方法
日本芝 (こうらい しば)	一年生雑草	雑草発生前～ 雑草発生初期	20～40 g/m ²	本剤：3回以内 シナジソン：3回以内 DBN：3回以内	全面土壌散布
	多年生広葉雑草 スギナ	春夏期 雑草発生初期			
つつじ類 つばき類	一年生雑草	雑草生育期 (草丈10cm以下)			

【散布の仕方】

- ・ 容器を開栓し、そのまま芝生に散布します。【700g入に記載】
- ・ 容器を下向き斜め45度に持ち、小刻みに左右に30回振りますと、約20～40g出ます。【700g入に記載】
- ・ そのまま芝生に散布します。水に溶かしません【1.4kg入に記載】

高温期の注意

高温期や異常乾燥時、芝生が弱っている時は薬害発生の恐れがあるので使用しない。

砂土での注意

砂土では薬害発生の恐れがあるので使用しない。

芝生の状態に注意

芝の活着（芝を張っても根が張っていて剥がれにくい状態）が不十分な芝生、生育不良の芝生には使用しない。

散布量・散布方法に注意

散布量が多いと、芝生も枯れるので注意。むらなく均一に散布する。

【注意】

- ・ 草丈の高い雑草には効きにくいので注意。雑草発生前や草丈の低い時期（目安として5cm以下）に散布する。
- ・ 有用植物も枯らす。
- ・ 雑草の中には枯れにくい種類（カヤツリグサ科など）もある。

- ・ 土壌条件、~~気~~気象条件（夏期乾燥時等）によっては効果にむらが生じる場合がある。
- ・ 他のものを入れて保管しない。

【効果・薬害等の注意】

- ・ 本剤は雑草が大きくなりすぎると効果が劣るので、芝で使用する場合は雑草発生前～雑草発生初期に、**つつじ類・つばき類**で使用する場合は雑草の草丈10cm以下の時期に均一に散布する。
- ・ 芝で使用する場合、高温期や異常乾燥時または芝生が弱っている時には使用しない(薬害)。
- ・ **つつじ類・つばき類**の枝葉に薬剤が付着した場合は払い落とす。
- ・ 砂土では薬害をおこす恐れがあるので使用しない。
- ・ 植え付け後や更新作業後の根が傷んでいる時期には薬害が出やすいので、使用しない。
- ・ 西洋芝は枯れるので、使用しない。
- ・ 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意する。

【安全使用上の注意】 マスク着用

- ・ 体調のすぐれない時は散布しない。
- ・ 眼に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける（刺激性）。
- ・ 散布時は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用する。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをする。
- ・ 街路、公園等で使用する場合は、散布中及び散布後(少なくとも散布当日)に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払う。
- ・ 水源池等に本剤が飛散・流入しないように十分注意する。
- ・ 飛散によって自動車やカラートタンの塗装等へ影響を与えないよう、散布地域の選定に注意し、散布区域内の諸物件に十分留意する。また、壁、ペット、洗濯物、玩具などにかからないようにする。
- ・ 使用後の空容器等、空袋等は放置せず、環境に影響を与えないよう、良くたたいて中身を完全に出してから適切に処理する。

【魚毒性等】 魚介類注意

養殖池等周辺での使用はさける。容器、空袋の洗浄水は、河川等に流さない。また、空容器、空袋等は、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。

【保管】 飲食物・食器類やペットの餌と区別し、直射日光をさけ、密栓して、小児の手の届かない冷涼で乾燥した場所に保管。